

教育・研究の組織改革が国内外の研究者や学生に どのようなインパクトを与えているか



国立大学法人の新たな可能性を示した一法人複数大学制度を活用した大学改革構想 (2大学を再編して新たな1法人2大学とする計画)を社会に示し、国立大学改革の推進に寄与した

○ 静岡大学における地域課題の解決に資する人材の育成に向けた新学部の創設

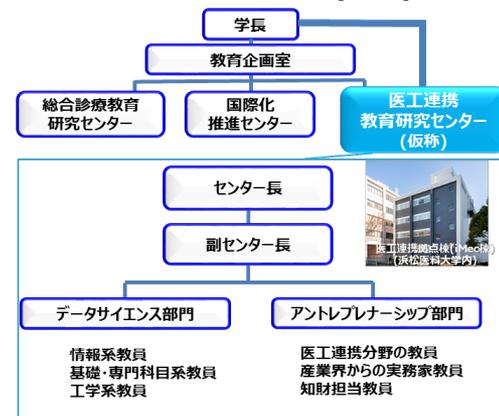
地域の様々なステークホルダーにより構成された「静岡大学将来構想協議会」からの提言を踏まえ、地域課題解決に資する人材の育成を念頭に置き、6学部1学環の力を結集した新学部の実現を目指している。新しい価値観や社会の仕組みを創造する力の基礎となる「総合知」を身に付けるための教育研究を展開することで、「課題思考力」「連携実践力」「国際コミュニケーション力」を養成し、これからの社会で活躍するために必要な視点・理性・知識・技能を備えた人材を育成する。(新学部における文理融合教育の3大要素：国際地域共創、環境科学、人間科学)



○ 浜松医科大学におけるアントレプレナーシップ、デザイン思考・AI、 数理データサイエンス教育の充実

令和4年度に医工連携教育研究センター(仮称)の設置を目指し、令和3年11月に設置準備室を立ち上げた。当センターにおいて、起業家精神を持った社会課題を解決する医療人の育成、メディカルイノベーションの創出に向けた教育を実施し、静岡大学などの他大学や他機関も連携しながら、新たな価値創造に取り組む姿勢や発想・能力を涵養する。

浜松医科大学における 医工連携教育研究センター(仮称) 組織図



○ 静岡大学 – 浜松医科大学 研究情報交換会の実施

静岡大学農学部及び理学部と浜松医科大学医学部との研究情報交換会を実施し、相互にニーズやシーズを共有し連携によって創出されるシナジーなどの理解を深め、今後の共同研究の推進や新たな研究領域の創出などが期待されるものとなった。人文社会科学部や教育学部との開催も令和3年度に予定している。

○ 光技術・光産業における高度専門人材の育成

静岡大学と浜松医科大学が共同で設置している光医工学共同専攻で、令和2年度に第1期修了生を輩出した。修了後は医療機関や関連企業において、光医工学に精通した人材として地域医療・地域産業で活躍している。

光医工学共同専攻と光産業創成大学院大学において単位互換協定を結び、同領域の人材育成に共同で取り組んでいる。



経営基盤を強化するための外部資金の獲得が進むような 質・量を伴った体制が整ったか



○ はままつ医工連携拠点による産学官金連携の推進

はままつ医工連携拠点は、浜松医科大学を中心として、浜松地域イノベーション推進機構、浜松商工会議所、静岡大学、光産業創成大学院大学、静岡県、浜松市の地域の産学官の主要組織によって構成され、さらに地域の医療機関、金融機関の協力も得て医工連携のワンストップ窓口として「地域密着型」の取組を展開している。

これらの積極的な取り組みによって、製品化14件/起業2件（令和元年～令和2年）の実績を出している。また、令和2年からは、地域の金融機関からコーディネータが常駐し、医工連携や起業の支援を行っている。

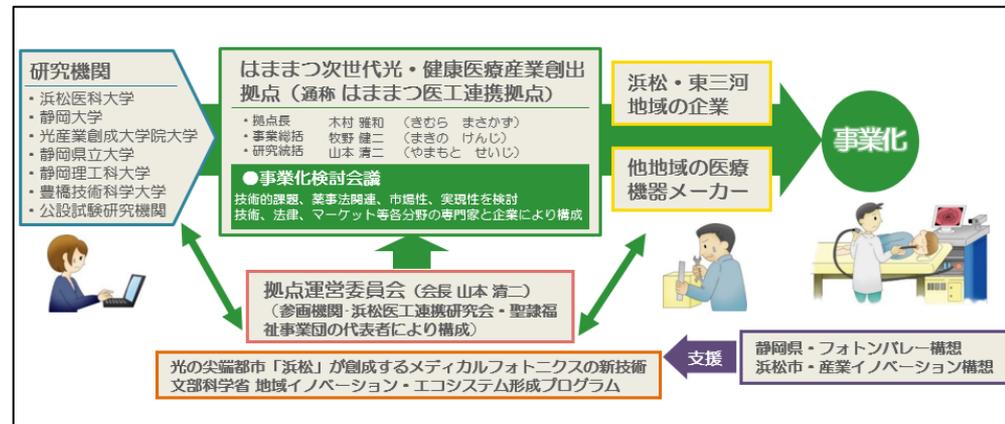
同拠点の機能を更に強化し、競争領域を中心とした大型共同研究の実施やオープンメディカルイノベーションの推進だけでなく、競争的資金獲得支援、ギャップファンド提供、知財マネジメント、知財権利化支援を積極的に実施し、外部資金の獲得を推進する。

（過去5年実績）

- ・ 医療現場との情報交換会26回（26科）681社、1295名参加
 - ・ 医療現場の見学会41回（40科）193社、251名参加
 - ・ 人材育成セミナー49回 762社、1657名参加
- 他、メディカルイノベーションフォーラム開催、医工連携出合いのサロン開催（医療系学会への企業展示）など



はままつ医工連携拠点の概要



獲得した資金や人的・物的リソースを 戦略的に配分することができるようになったか



○ 新大学の使命達成のための経営力を強化する新たな法人経営の実践

コンサルタントを活用した両大学の業務運営の検証報告を基に、両地区大学の教育研究パフォーマンスを最大限に発揮させるための新法人としての効率的かつ効果的な業務執行体制を検討した。法人統合・大学再編を見据え、可能な限りの両大学での仕様の共通化に取り組んでおり、財務会計システム（予算管理、支出業務、資産登録を行うためのシステム）については既に共同で調達、令和4年4月1日から新システムで業務開始し、業務改善や人員の適正配置による更なる経費の削減を見込んでいる。

○ 産学連携・知財活用推進センターによる産学官金連携の推進

法人統合・大学再編を見据えて、静岡大学と浜松医科大学の更なる連携強化のために、令和2年4月1日付で、浜松医科大学の産学連携・知財活用推進センターに新たに特任助教のコーディネーターを1人配置した。新規コーディネーターは、静岡大学イノベーション社会連携推進機構において現場での実務も行い、特に医工連携を推進するために活動を行った。また、産学連携・知財活用推進センターが管轄するレンタルラボ等のレンタルスペースを有効活用することで、大学発ベンチャーや共同研究企業との連携体制を構築する。



○ 大学改革のための組織体制整備

静岡大学では、第4期中期目標期間における大学改革を推進することを目的として「静岡大学未来創成本部」を令和4年4月に設置予定であり、それに先駆けて令和3年10月に「本部準備室」を設置し、「新学部の創設」「大学等連携推進法人の設立」に関する議論を推進するための体制整備を行った。

浜松医科大学では、産学連携部門外部法人化のための「産学官連携実施法人設立事務準備室」、寄付金獲得体制強化のための「創立50周年記念事業基金室」、医工連携教育強化のための「医工連携教育研究センター設立準備室」をそれぞれ令和3年11月に立ち上げ、今後の大学改革のさらなる推進のための体制整備を行った。

浜松医科大学の事務局が実施している若手職員による勉強会について、静岡大学事務局の若手職員の希望者にも動画の配信をする形式で両校の若手事務職員の相互理解と意識向上に取り組んだ。自大学以外の業務を知る貴重な機会となり、アンケートの結果も非常に前向きな意見が多かった。両大学の相互理解を深めるためにも今後も継続して開催する。

○ 未来社会デザイン機構によるオール静岡体制の実現に向けた取組

静岡県東部地域のプレゼンスを高めるための活動拠点として「東部サテライト『三余塾』を伊豆市に設置し、伊豆半島全域の未来社会構想の策定と実現に向けた総合的取組に向けて、地域が望む未来を大学が協働して実践する取組を推進した。当該地域自治体や県内大手企業等と共に推進する計画について協議し、松崎町における「2030松崎プロジェクト」をはじめ、裾野市、静岡市、磐田市との事業など、具体的な産学官共同による取組も開始されている。



令和元年度国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業） 採択事業フォローアップにおける所見への対応状況



所見

- 静岡大学が有する知的資源を起点としつつ、特に静岡地区において、新たな強み、特色の創出も含めた改革像を早期に具体化すること。
- その中で、静岡大学将来構想協議会の提言等も踏まえ、新たな学部の創設や県立大学との連携など、県内の公私立大学を巻き込んだ体制の構築等について速やかに具体化すること。
- 浜松地区における医工連携等により生み出される成果の静岡地区も含めた県域全体への波及を実現するための方策について、浜松地区側が主体的に取り組むこと。

対応状況

本事業の中で、具体化が進んでいない静岡地区側の改革像の具体化に向けて検討を加速化

静岡大学将来構想協議会の提言を踏まえ、静岡大学において、静岡地区のもつリソースを最大限有効活用するための新学部をはじめとする大胆な組織改編構想について、浜松医科大学とも連携しつつ、推進(令和3年度末の設置申請を目的)

また、静岡大学の組織改編構想を踏まえ、当初の構想からさらに発展・充実した法人統合・大学再編を実施

静岡の地で新たな高等教育モデルを社会に示していくことを目指し、県内大学間での連携強化

地域の要請に応えていける国立大学像の実現に向け、協働体制としてのプラットフォームの検討

医工連携教育研究センターを設置して(令和4年度予定)、浜松医科大学と静岡大学工学部・情報学部により、産業界と医療現場に精通しイノベーションを起こす研究者や医療現場のニーズを知る起業家の養成を目的とした履修証明プログラムを設定し、他大学学生や社会人が履修可能な形式で実施することを検討しており、浜松地区だけでなく、県内全域に新たな価値創造に取り組む姿勢や発想・能力を持った人材を育成